



佐藤クリスタル

国際交流員コーナー

CIR's Corner

2024年4月 - 第23号



皆さん、こんにちは！江別市国際交流員の佐藤クリスタルです。「国際交流員コーナー」とは、私が毎月作成する国際交流や多文化についての記事です。様々な興味深い国際的なテーマを紹介します。

今月のテーマ:誕生日

私の誕生日は4月10日ですので、今月はアメリカの誕生日の慣習についていくつか紹介します。

誕生日パーティー

日本では、家で家族と静かに誕生日を祝うことが多いですが、アメリカでは、子どもから大人まで多くの人は誕生日パーティーを開催し、ワイワイします。

子どもの誕生日パーティーはかなり大きなイベントです。誕生日を迎えた主役は主に学校の友達を招待します。いじめを防ぐため、学校で招待状を配る場合、友達ではなくてもクラスの全員を誘わなければならないというルールがある学校もあります。クラスの全員がパーティーに来て問題ない位の広い家に住んでいるアメリカ人はホームパーティーを開催しますが、レストランやイベントスペースを借りる人もたくさんいます。私が子どもの時、人気の誕生日パーティーの会場は、なんとマクドナルドでした！ハンバーガー、チキンナゲット、ポテトフライを皆で食べて、遊具で遊びまくった記憶があります。ゲームセンターや遊園地での誕生日パーティーに行ったこともあります。



私の誕生日パーティーは、家でお泊まり会をしたり、公園でピクニックをしたりしました。いつも春休みの間だったので、誕生日パーティーをあまりしていませんでした。

大人の誕生日パーティーは、家族や友達と一緒にレストランやバーで祝う人が多いと思います。外食する際、別のテーブルから「ハッピーバースデー」の歌がよく聞こえてきます。

誕生日ケーキ

誕生日ケーキは日本でも普通に食べていますが、19世紀中頃に始まった西洋文化です。日本の誕生日ケーキはスポンジケーキにホイップクリームを塗り、上にいちごや生のフルーツをふんだんに乗せる「ショートケーキ」が定番ですが、アメリカの誕生日ケーキは甘いバターケーキに甘いバタークリームを塗り、生のフルーツを乗せることは滅多に見られません。そして、丸いケーキではなく、大人数で食べられる四角いケーキが多いと思います。そして、誕生日ケーキと一緒に、必ずアイスクリームを食べます。

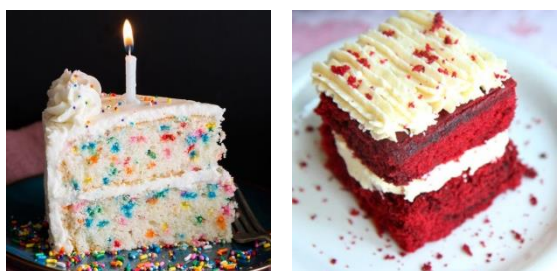
誕生日ケーキの味は、主役の好みによります。馴染みのバニラやチョコレートもあり、日本で普及していないレモン、ニンジン、「red velvet」という緋色のケーキもあります。特に誕生日に人気のある味は「funfetti」

(ファンフェットティ)です。「Funfetti」というのは、「fun」(楽しい)＋「confetti」(紙吹雪)という意味で、白いケーキの生地には虹色のカラー Sprees を



たっぷり交ぜるので、紙吹雪のようなカラフルな見た目のケーキに焼き上がります。楽しい誕生日パーティーにぴったりですね。

ちなみに、アメリカ人はred velvet や funfetti のような不自然な色を使ったお菓子を割りと平気で食べています。私の夫は初めてアメリカで red velvet のケーキを見たら、「なにこれ？気持ち悪い！」と言いました。そして、日本で、私は娘に funfetti のケーキを作ろうとしたら、日本のカラーズプレーは色が薄く、焼いたら色がほとんど消えたので、上手く作れませんでした。日本では人工的な色を食べ物にあまり使わないような気がします。



ピニャータ

ピニャータは元々メキシコの文化ですが、アメリカの子どもたちにも人気があります。紙で作られた星や馬の中にお菓子をたくさん詰め込み、木などの高い場所からつるします。それから目隠しをした子供が棒でたたいて割ろうとします。ピニャータを割れば、中に詰めておいたお菓子が散らばるので、子どもたちが必死に拾います。

子どもの時に、何回かピニャータで遊んだことがあります。楽しい思い出です。日本ではピニャータを売っていませんが、紙で作ることができます。江別国際センターでは毎年ピニャータを作り、2月の「冬の集い」という国際交流イベントでピニャータ割りをしています。今年私の娘もやってみて、楽しそうでした。



誕生日のパンチ

誕生日の「パンチ」は飲み物ではありません！「パンチ」は英語で「殴る」という意味もありますが、「誕生日のパンチ」はその意味です。年齢と同じ回数誕生日を迎えた人を殴ります。例えば、10歳になった子は腕を10回殴られます。そして、殴り終わったら、最後に「a pinch to grow an inch」(身長が1インチ伸びますように)と言い、誕生日の子の

腕をつまみます。私の誕生日は春休みの間だったので、幸いなことに、誕生日パンチの被害者になったことはほとんどありません。

特別な年齢

日本では、「七五三」や「成人の日」に、特別な年齢を祝います。アメリカでも、特別な年齢があります。例えば、「sweet sixteen」(素敵な16歳)です。アメリカで16歳になると運転免許を取得できるので、プレゼントで車をもらう子もいます。

ヒスパニック系アメリカ人の女の子にとって、16歳ではなく、15歳が特別で「quinceañera」(キンセアニェーラ)というパーティーを開催します。女の子から成人の女性になる大切なイベントです。親はイベントプランナーを雇い、会場、DJ、カメラマンなどを一年前に予約します。ケーキは3、4、5段もあります。ドレスは特にゴージャスで、日本の結婚式で花嫁が着るカラードレスに似ています。結婚式の披露宴と同じような大規模のパーティーなので、費用も同じ位かかります。平均は300万円らしいですが、女の子が生まれたり、親はすぐ貯金を始めるし、親戚が費用を支援することもあります。娘の幸せは値段が付けられないほど貴重なことです。



最後に、アメリカでは、21歳になると飲酒できるので、21歳の誕生日も特別です。大学の時、バーやクラブで21歳の誕生日パーティーを開催する人が多かったですが、最近アメリカ人の若者は健康やお金を考えているので、お酒をあまり飲んでいないらしいです。21歳になってからバーに行かないと、どうやって成人になったことを祝うか、私には想像できませんが、皆さんは自分なりに誕生日を楽しめばいいと思います。★

お問合せ先

教育部 生涯学習課 国際交流員
〒067-0074 北海道江別市高砂町 24-6
Tel:011-381-1049 Fax:011-382-3434

写真: r/90s by u/theheartlessnerd, pillsburybaking.com, cookingclassy.com/birthday-cake/, flickr user vnysia, irasutoya.com, Christopher Michel - commons.wikimedia.org